

会派視察・研修報告書

1 日 に ち	平成 30 年 7 月 11日 (水) ～12日(木)
2 研修名、主催者及び会場	全国地方議会サミット2018 議会のチカラで日本創生 早稲田大学マニフェスト研究会 早稲田大学大隈記念講堂
3 参 加 者	仙石三喜男 佐藤信行 石田浩司
4 研修のテーマ	政策で地域貢献する議会の実践
5 主な内容	<p>7月11日(水)13:00～17:30 「地方議会から日本を変える」北川正恭 「地方創生の展開」総務省安田事務次官 パネルディスカッション 「真の地方創生とは何か」 「地方創生時代に求められる議会力」 江藤俊昭 パネルディディスカッション 「議会力強化のための、議会事務局の変革」</p> <p>7月12日(木)9:30～16:00 事例報告①「地方創生をリードする議会へ」 事例報告②「政策を実現する議会へ」 「海外の議会制度から議会の多様化を考える」 パネルディスカッション 「多様性ある議会に向けた実践と課題」 「政策型選挙の実現に向けて」北川正恭</p>

【議員氏名】 石田浩司

早稲田大学マニフェスト研究会の主催による講演会に2日間参加しました。この研究会主催マニフェスト大賞で多治見市議会は第11回マニフェスト大賞成果賞最優秀賞を受賞しており、他自治体の参考事例を聞く良い機会となった。

1995年、国は全会一致で地方分権一括法制定しており地方からの変革、本当の地方創生を実現させるためである。住民の代表である議会は執行部の慣例や習慣を打ち破り住民姿態の議会をめざしていく必要がある。

市民参加の対話集会はもちろん、犬山市議会では市民から提案を議場で使い行っている。市民の声を聴き、その声を議会からの政策提案へつなげていく事が課題である。

政策提案として市政一般質問による議員個人の政策提案も必要であるが、個人提案を議会として精査し、議会として提案する方法、また、常任委員会から政策提案をする方法(多治見市議会では取り組みを進めている)など早急に進めるべきである。それには、議員個人の政策に対する考え方を変革していかなければならないと感じた。

執行部は国から援軍があり予算、情報、政策、条例案等の支援があるが、議会は事務局体制と住民援軍をつけることで2元代表制が保たれる。執行部に対抗するには議会事務局強化が必須である。先進自治体議会が行っている良い改革は、真似し取り入れていく姿勢が必要である。

2日間にわたり講演会に参加して、各地方議会は変革の 때가訪れており、新旧議員が入れ替わる改編期が議会改革を進めるチャンスである。究極、選挙で議員を選ばなくても、市民の意見を聞き、政策をまとめられる能力のある人が行えば、あえて選挙をする必要があるのと感じた反面、市民の声が間違っていたり、将来禍根を残すような政策であれば、市民に対して誠意をもって説明を行うことも議員の役目だと感じ研修会を終えました。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意

